

ピースウィンズ・ショップから

PWJオリジナルカレンダー(壁掛け)、
ワンコカレンダー(壁掛け、卓上)、
チョコレート販売開始しました!

今年も残りわずかとなりました。毎年好評いただいているPWJオリジナルカレンダー、オリジナルワンコカレンダーが完成しました。PWJスタッフが国内外の事業地で撮影した笑顔の写真を集めた「Smiles of The World」も、ピースワンコ・ジャパンプロジェクトで保護・譲渡した犬たちの愛くるしい表情が満載の「オリジナルワンコカレンダー」も、ほっこり幸せな気持ちにさせてくれるカレンダーです。また、今年は災害救助犬の夢之丞とハルクの写真を集めた卓上カレンダーもご用意しました。ご自宅、職場、ギフトにぜひご利用ください。また、秋冬限定販売商品のピーブルツリーのチョコレートも、「ビター・ザクロ」などの新しいフレーバーを加えて販売を開始しています。



ギフトシーズン到来! もらった人も贈ったあなたもハッピーになるギフトを!

クリスマスやお正月のご挨拶など、ギフトを贈るシーンが多い年末年始。今年は、ピースウィンズ・ショップのギフトを贈って、もらった人も世界中の人たちも笑顔にする。そんな選択をしてみませんか?

ショップでは現在、通常のギフトに加え、クリスマスデザインや来年の干支である酉(とり)のイラスト入りドリップバッグコーヒーのギフトセットもご用意しています。ラッピング、熨斗、メッセージカードの封入などもご希望に合わせて対応させていただきます。

皆様からのご注文をスタッフ一同お待ちしております。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

同封のご注文用紙をFAX:03-3465-2112
またはTEL:03-5738-8021まで

*ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

[重要] 継続的にご支援下さっている会員の皆さんへ

日頃より温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。2016年にいただいたご寄付の領収書を2017年1月後半に送付いたしますが、今回から領収書の押印を省略させていただくことになりました。国税庁に確認したところ、認印がなくても領収書として有効なことが分かったためです。認印のイメージなどを印刷し、押印を省略いたしますが、有効な領収書ですのでご理解いただけますと幸いです。引き続き、PWJの活動に温かいご支援をお願いいたします。(当団体は認定NPO法人のため、ご寄付は税金控除の対象となります。領収書は確定申告の際に税務署へご提出ください)

ご不要なハガキ・切手・CD等はありませんか?

書き損じの官製はがきや年賀はがきの残り、未使用の切手がございましたら、お送りください。少量でも古いものでも結構です。ハガキを交換して得られた資金はPWJの支援活動に活用いたします。

[送り先] ☎151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階
ピースウィンズ・ジャパン東京事務所 ハガキ寄付係
(受領証が必要な方はその旨お書き添えください)

また、年末の大掃除で本やCDの処分をお考えでしたら「ブックキフ」をご利用ください。無料で集荷し、ブックオフが査定した金額がPWJへのご寄付となります。お申し込みはHP、もしくはお電話にてご連絡ください。

<http://peace-winds.org/support/book.html>
フリーダイヤル 0120-252-176

支援者
サービスの
窓

佐賀の伝統工芸支援、 本格始動! お知らせ

PWJ佐賀事務所では、伝統工芸支援を本格化するため、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」で新プロジェクト(<http://www.furusato-tax.jp/gcf/107>)を開始しました。伝統工芸の作り手を支援するために選んだお礼の品は、佐賀錦、鍋島絞、肥前名尾和紙、弓野人形など、是非一度実物に触れて魅力を感じていただきたい逸品ばかりです。伝統工芸支援では今後、東京での展示会(12月3・4日)も予定しています。詳細はHPをご覧ください。



伝える、広げる。
佐賀の伝統工芸支援始動!

peace winds
JAPAN

支援のプロを、
世界の現場へ

避難民を前に 冬急増の危機 —イラク・モスル奪還作戦が本格化—

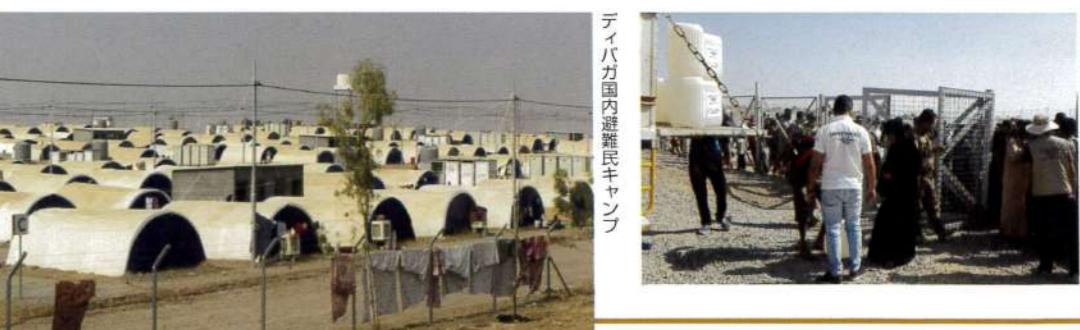
2016年10月17日、イラク政府は「イスラム国」のイラク最大の拠点である北部モスルの奪還作戦を本格的に開始しました。国連人道問題調整事務所(UNOCHA)の報告(11月1日時点)では、奪還作戦の戦闘により、すでに避難を余儀なくされている人は約1万8000人、緊急支援を受けた人は約2万5000人に上るとされています。また、この作戦は長期化が予想され、約150万人に影響を及ぼし、今年最悪の事態になると国連は警鐘を鳴らしています。

モスルやその周辺地域では、今年春ごろからイラク中央政府軍と「イスラム国」との戦闘が繰り広げられ、その戦闘を逃れた国内避難民がイラク北部のキャンプに流入していました。ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の支援地のひとつであるディバガ国内避難民キャンプは、すでに7月には避難民で溢れ、殺伐とした雰囲気が漂っていました。テントの数が足りず、キャンプ内のモスクや学校、倉庫などの一時的な宿泊場所にも入れない人が増え、男性は野宿を強いられていました。夏は気温が摂氏50度まで上がるイラク北部。その中で最低限の生活を維持できるよう、PWJは人々が暮らすモスクや学校などに扇風機やエアコンを配布しました。

それから4ヶ月。今度はイラクに長く寒い冬が近づいています。北部は特に冷え込みが厳しく、国内避難民の人々は最も過酷な時期を迎えることになります。厳しい冬を乗り切ることができるよう、PWJはこれから灯油配布などの越冬支援を行う予定です。

この冬は、モスル奪還作戦に伴う戦闘が激化するにつれ、支援を必要とする人が急増することも心配されます。PWJは新たに発生する人道危機に迅速に対応するべく、現地情勢やニーズの変化を注視しながら、必要な支援を続けていきます。

★特集は裏面に続く



ディバガ国内避難民キャンプ

押し寄せるシリア難民とイラク国内避難民

PWJが1996年の設立当初から支援を続けているイラク北部の人々は、これまで国内外の政治状況に翻弄されてきました。2011年に隣国シリアで紛争が勃発すると、シリアからの難民が安全を求めてイラク北部にも大量に押し寄せました。イラクで避難生活を送るシリア難民は今年9月末時点で22万5000人(出典:UNHCR)に上りますが、その96%が北部で生活しています。

そして、2014年6月のモスル陥落、8月のシンジャール攻撃など、イラク国内も「イスラム国」の攻勢にさらされてきました。それにより、イラク各地から多くの国内避難民が北部に流入し、今年10月27日時点で約93万人(出典:IOM-DTM)がイラク北部で避難生活を送っています。

PWJが支援する国内避難民キャンプに逃れてきた人の中には、「イスラム国」の兵士によって目の前で親戚や家族を殺され、自らも一時拉致されるも走って逃げ続けてきた人など、悲惨な体験をして着の身着のままで逃げてきた人が多くいます。



受け入れてきたクルド人自治区も疲弊

イラク北部はクルド人が多く居住し、長年クルド人自治区として自治が認められてきましたが、人々の生活は決して恵まれたものではありません。それでも、シリア難民やイラク国内避難民が逃げてくると、クルド人の住民たちは自分の家で面倒をみたり、食べ物を分けたりし、目の前で助けを求める人々を温かいホスピタリティで迎えてきました。

しかし、長期化するシリア内戦と不安定な国内の政治情勢に、昨今のクルド人自治区内の深刻な経済危機も重なり、難民たちを受け入れる地元の地域社会(ホストコミュニティ)も疲弊はじめています。

そこで、PWJはホストコミュニティの負担を軽減するため、地元の人々に対して、灯油の配布、井戸の掘削や給水設備の整備などの支援をしています。また、シリア難民キャンプ

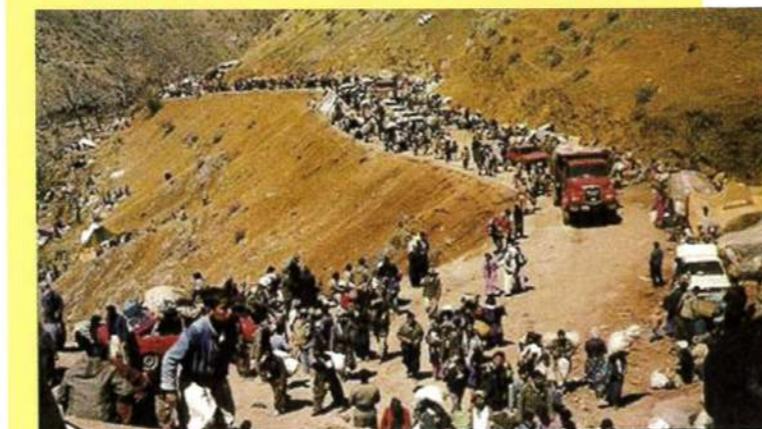
のシェルター改善事業では、シリア難民だけでなくホストコミュニティの住民を労働者として雇い、彼らの生計を支援するとともに、将来の就職にもつながるよう取り組んでいます。



PWJはホストコミュニティの支援も実施

今年10月17日に本格開始したモスル奪還作戦に伴う戦闘が激化するにつれ、国内避難民の数が急増し、ホストコミュニティの負担もさらに増すことが予想されます。PWJは、支援の届きにくいところにも支援を届けるため、今後もシリア難民や国内避難民の支援のみならず、彼らを受け入れているホストコミュニティの負担軽減につながる活動を続けます。

～PWJ現地クルド人スタッフの声～ 「ここに残って人々の助けになりたい」



サダメ・フセイン政権による圧政を恐れ、多くのクルド人が国外へ逃れた1991年、当時4歳だった私は80人の親戚とともにトルコへ逃げました。その後帰国しましたが、2014年にはイスラム国による戦闘がイラク国内でも始まり、逃げるか否か、再度判断を迫られることになりました。父はトルコへ逃げるよう言いましたが、私は(今は)PWJの一員として避難してきた人々を助けているから、必要とされているのに自分が逃げるわけにはいかない」と伝えました。人道支援に携わる以上、任務を果たさなければなりません。決断は難しかったものの、自分の心に問いかけた結果、「ここに残って人々の助けになりたい。シリア難民や国内避難民に何か起これば私も共に立ち向かおう」と私は誓いました。

緊急支援の現場から

10月4日に中米ハイチを大型ハリケーン「マシュー」が直撃し、甚大な被害が出たことを受け、PWJは緊急支援のためスタッフ2名を現地に派遣しました。2名は21日にハイチに到着し、25日に支援が届いていないとされる南県のレカイ郡トーベックという自治体を訪れ、現場のニーズを調査しました。

ハリケーンで特に大きな被害を受けたハイチ南部～南西部は、首都ポルトープランスから離れ、道路も舗装されていない地域が多いため、支援が届くまでに時間がかかることがあります。トーベックの住民は主に農業と牧畜で生計を立てていますが、今回のハリケーン上陸によって多くの家庭は家畜を失ったり、農地が水没して収穫前の作物が全滅したりしており、生活の基盤を失ってしまいました。

トーベックの市長であるレジモンド・ジャン・エノルドさんに話を聞いたところ、支援がほとんど届かず住民がとても苦しい生活をしている「第4地区」という地域があることが分かりました。そこでPWJスタッフは、市長とともに同地区的リーダーのグロードさんと面会し、第4地区の500世帯を対象にブルーシート、毛布、衛生用品などの物資を配布することにしました。

同地区に住むベティさんは「うちは8人家族で、豆やとうもろこしを栽培したり、牛を育てたりして暮らしていましたが、ハリケーンでそれらを失ってしまいました。家屋の損傷も激しく、毎日不安な日々を過ごしています」と話します。また、グロードさんは「多くの家が半壊または全壊しており、まだ直すことができていないのが一番の問題点です」と話します。

PWJは31までに物資を現地調達し、500世帯に配布しました。今後も引き続き、ハリケーンの被災者の生活再建に向けた支援を検討しています。



物資の配布を待つ人々

PWJボランティアさんの声

グローバルフェスタ2016にブース出展しました



PWJは10月1、2日、東京・お台場で開催された「グローバルフェスタJAPAN 2016」にブース出展し、支援活動の写真展示やピースコーヒーの販売を行いました。今回は青山学院高等部でフェアトレードについて学ぶ有志団体「BLUE PECO」のメンバーも手伝ってくれ、オリジナルドリップバッグのプレゼントがあるクイズイベントも実施し、例年よりさらにぎやかな出展となりました。

参加したBLUE PECOの三國典明さん

「僕たちはこれまでPWJの取り組みを通してフェアトレードや東ティモールコーヒーについて学んできました。8月には僕もう一人のメンバーが東ティモールのコーヒー産地を訪問し、生産者との交流を通してたくさん学びました。その学びをさらに広げるため、グローバルフェスタでは東ティモールをもっと知ってもらえるクイズを作成し、メンバー10名で接客や販売のお手伝いをさせていただきました。生産者の笑顔を守るために、もっと東ティモールのコーヒーをたくさんの人に知って、飲んでもらいたい。そして美味しいと言ってもらえたたら嬉しいです」



メディア掲載報告

- 8/19 佐賀新聞で熊本支援の一環で開催した陶器市が紹介
- 9/5 朝日新聞広島備後版のひと欄で国内事業部長・國田が紹介
- 9/14 中国新聞でPWJが運営に関わる神石高原ティアガルテンの商品開発(シードル)について紹介
- 10/5 ふるさと納税の取り組みについて、日本テレビ「news every.」で紹介
- 10/8 しんぶん赤旗でPWJの南スーダン事業が紹介
- 10/16 佐賀新聞に熊本での企業連携(佐賀の企業の薬剤師派遣)について紹介
- ビースワンコ事業が連携するバンド「SEKAI NO OWARI」の殺処ゼロプロジェクトについて、日本テレビ「NEWS ZERO」、朝日新聞、毎日新聞等で紹介
- JICAの広報誌「mundi」11月号でピースコーヒーが紹介 etc...

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号: 00160-3-179641

加入者名: 特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(東日本大震災の場合はその旨)を記入してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 青山支店

口座番号: 普通 1671932

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名: 三井住友銀行 桜新町支店

口座番号: 普通 6723184

口座名義: 特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン

※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込では住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。